

介護老人保健施設しおさい

症例概要 利用者:80代 男性 要介護3

利用期間:2019年8月～入所を利用

病名:総胆管結石

経過:2019年1月に妻が脳梗塞で倒れてから精神的に不安定になり、飲酒量が増えた。妻が退院後は飲酒時に暴言・暴力が見られるようになり、妻をDVから守るために社会的入院させたが、二人が離れ離れになると近所でも飲酒時にトラブルを起こすなど問題があり、妻もまた夫と離れてしまうと泣いて夫を心配するため、二人で施設に入所できないかとの相談をうけ、2019年8月中旬ご夫婦での入所となった。

内 容

入所前は、利用者さんの暴力を受けないように妻は社会的入院をしていたため、しおさいで再会を果たしました。利用者さんは自分自身も入所することで飲酒を絶ち、妻とまた同じ場所で生活出来ることを喜んでいらっしゃいました。ご入所当初の利用者さんはADLほぼ自立。しかしアルコール依存と診断され多くの精神薬を処方されていました。当初は禁断症状が出るのではないかと不安もありましたが、妻と生活出来ることが嬉しかったのか、とても暴力を振るっていた方には思えないくらい穏やかに過ごされていました。

入所後、精神薬は減薬、息子さんたちは、「親父はもうどうなってもいい」と関係を半ば絶たれていましたが、ご面会にも来て下さるようになりました。

しかし、半年が過ぎた頃、利用者さんが腹痛を訴え、受診した結果、総胆管結石のため入院となっていました。急性期病院の医師には今後施設での生活は困難で療養型を勧められましたが、利用者さんご家族は、夫婦で生活出来るしおさいに戻りたいとのご希望で、2020年2月に再入所されました。再入所時の利用者さんは、ほぼ寝たきりの状態で、離床してもすぐに居室に戻って休まれるようになりました。奥様と過ごす時間も激減し、食事に出てくる程度となっていました。「俺はもうダメだ、何もしたくない」と全てにおいて意欲を失くしていました。

もう一度ご夫婦が過ごす時間を取り戻すために居室担当中心に生活リハビリから開始しました。起立も不安定のため介助で車椅子へ移乗していましたが、毎日コツコツとリハビリを継続することで、車

椅子の移乗・短い距離の自走が出来るようになっていきました。そこで利用者さんでもあり、ご家族でもある奥様に、利用者さんと今後どのようにしたいか伺うと、入院してしまう前のように二人で過ごす時間を持ちたいと言われました。奥様の思いも汲んだ取り組みとして、徐々に自信を取り戻してきた利用者さんに、二人で車椅子自走の練習をしてみてもどうかと提案すると、やってみようかなとおっしゃったため、職員付き添いのもと二人でフロアを自走する練習を始めました。

一人でのリハビリよりもご夫婦二人で始めた、車椅子での自走練習は、お二人にとってご夫婦での散歩のような時間となり、利用者さんも、その時間を楽しむようになりました。現在の利用者さんはまた笑顔を取り戻し、ご夫婦での生活を大切に過ごされています。アルコール依存になった時や、総胆管結石で入院した時には、もうご夫婦で過ごせることはないと思ったそうです。

今はお二人にとってこのしおさいが「新しい家」となり、諦めていた夫婦での生活を取り戻すことが出来ています。利用者さんは「こんな自分を受け入れてくれて、お母さん(妻)と暮らせて、しおさいがあつて良かった」とおっしゃってくれています。ご夫婦で過ごせることが利用者さんの幸せであり、その時間を取り戻すことが出来た症例となりました。